

令和3年度 第33回全国高等学校ボクシング選抜大会 兼 JOC ジュニアオリンピック カップにおける新型コロナウイルス感染症の対策について

2022年1月21日

1. 競技会開催・実施時の感染防止策について

1-1. 全般的な事項

- 感染防止のため、主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（競技会の受付場所等）に掲示する。
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮する。
- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた書面について、保存期間（2カ月）を定めて保存する。
- 競技会後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、北海道教育委員会及び北海道高体連とあらかじめ検討しておく。

1-2. 競技会参加募集時の対応

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求める。（競技会当日に健康申告書で確認する）
 - 体調がよくない場合。（例：発熱、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常などがある場合）
 - 感染者もしくは感染が強く疑われる人と同居しているか濃厚接触歴がある場合。
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- マスクを持参すること。（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をしている際にはマスクを着用することが望ましい）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- 可能な限り、他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 競技会中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。感染防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にし、これを遵守できない参加者には、参加取消しや途中退場を求めることがあることを周知する。
- 競技会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

1-3. 参加受付、健診計量時の対応

- 受付窓口には、手指消毒剤を設置する。
- 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける。（状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限することも検討する。）
- 受付窓口など多くの人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する。
- 参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行う。
- 受付を行うスタッフには、マスクを着用させる。

- インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避ける。
- 当日の受付のほか、競技会前日の受付等混雑を極力避けるようを考慮する。
- 参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求める。
 - 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取扱いには留意する。
 - 当日の体温。
 - 競技会前2週間における以下の事項の有無。
 - 平熱を超える発熱。（おおむね 37 度 5 分以上）
 - 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状。
 - だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）。
 - 嗅覚や味覚の異常。
 - 体が重く感じる、疲れやすい等。
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無。
 - 感染者もしくは感染が強く疑われる人と同居か濃厚接触歴がある場合。
 - 政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- IDを発行された選手、関係者は、競技会場への入場が認められる。IDは、常に着用しなければならない。入場が許可された観客は、選手や関係者と接触してはならない。
- 健診時、ドクターはマスクを着用する。フェースシールドの着用はドクターの判断によって検討する。口腔内の診察は省略する。手指や聴診器、打鍵機を、アルコール性消毒薬で消毒し、接触感染の予防に努める。
- 点呼、健診補助、計量などに関わるスタッフは、マスクを着用し、選手に対応するたびに、手洗いやアルコール性消毒薬で手指を消毒して接触感染予防に努める。

1-4. 競技会参加者への対応

- マスク等の準備。
 - 参加者がマスクを準備しているか確認する。
 - 参加の受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間については、マスクの着用を求める。（競技中のマスクの着用は禁止する。）
- 競技会参加前後の留意事項
 - 競技会の前後のミーティングや懇親会等においても、三密を避ける。
 - ミーティング時は、マスクを着用する。
 - 試合後、用具を外す・汗を拭きとるなどの際においても周囲への飛沫拡散を配慮し適切な距離をとる。

1-5. 競技会主催者が準備すべき事項

- 手洗い場所（トイレ以外）
 - 手洗い場には石鹸（ポンプ型）を用意する。
 - 「手洗いは 30 秒以上」等、手洗いを奨励する掲示を行う。
 - 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。（参加者にマイタオルの持参を求める。布タオルや手指を乾燥させる設備については、エアロゾルの発生を招く可能性があるため、使用を禁止する。）
 - 手洗いが難しい場所では、アルコール等の手指消毒剤を用意する。
- 更衣室、休憩・待機スペース
 - 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける。（障がい者の介助を

行う場合を除く)

- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、時間を決めて、スタッフがこまめに消毒を行う。
- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮する。
- スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする。
- 洗面所（トイレ）
 - 手洗い場には石鹸（ポンプ型）を用意する。
 - 「手洗いは 30 秒以上」等、手洗いを奨励する掲示を行う。
 - 手洗い後に手を拭くためのペーパータオルを用意する。
 - トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、時間を決めて、スタッフがこまめに消毒する。
 - トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう掲示する。
- 飲食物の提供時
 - 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける。
 - スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する。
 - 競技会場で食事をする場合、集団での食事は禁止する。また、食事中的の会話は禁止する。**
 - 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させ、手洗いを徹底させる。
- 観戦者の管理
 - 関係者以外の観戦者を入場させての競技を行うかどうかは、競技会企画時に、該当地域での感染の状況、社会情勢を勘案した上で、十分に検討する。
 - 観戦者（保護者を含む）を入場させる場合には、観戦者同士が密な状態とならないよう、あらかじめ観客席の配置や、数を減らすなどの対応をとる。
 - 大声での声援を送らないことや会話を控えることを周知する。
 - 観戦する場合はマスクを着用すること等の留意事項を周知する。
- 競技会会場
 - 競技会会場が換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。
 - 換気設備を適切に運転する。
 - 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う。
 - 会場が密閉空間とならないよう、換気設備を適切に運転するとともに、窓や出入り口を開放し、外気を取り入れるなどの換気を行う。
- ゴミの廃棄
 - 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
 - マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

1-6. 選手がウォームアップを行う際の留意点

- 試合前の動的ウォームアップ（シャドーボクシングやミット打ち）は、運動強度が高まり呼気も激しくなるため、十分なスペースを確保する必要がある。そのため選手の出場予定時刻などにより場所や時間を指定する。ウォームアップのためのマスボクシングは、管理できない濃厚接触を生む可能性があるため禁止する。**ミット打ちなどを行う場合も**

マスクを着用する。

- タオルの共用やドリンクの回し飲みは行わないように周知する。
- 試合前のグローブングームは、関係者同士が距離をとれるようにする。

1-7. 試合を行う際の留意点

- 濃厚接触者を減らすため、レフリー、ジャッジは常時マスクを着用、選手も試合直前（ヘッドガードを装着する）までマスクを着用する。
- フェースガードを使用しての競技は、安全性の問題から許可しない。通常のヘッドガードのみで競技を行う。また、競技中のマスクの着用も許可しない。
- セCONDは、マスクもしくはフェースシールドを着用し、プラスチック（もしくはゴム製の）手袋も着用する。プラスチックグローブは試合ごとに交換し、フェースシールドはアルコール性消毒液で拭き上げる。
- セCONDがラウンド間の選手対応でタオルによる送風を行うことは、エアロゾルを発生させるため禁止する。（乾いたタオルによる汗拭きのみとする。）
- 選手のラウンド間のうがい、マウスピースの洗浄は禁止とし、飲水のみを認める。インターバル中の飲用水は、実行委員会より支給する。口腔内の損傷が疑われる場合は、リングドクターの指示に従う。
- セCONDらが FOP (Field of Play) エリア内で使用したプラスチックグローブやフェースシールドに関しては、FOP エリア外に出る前に外し、FOP エリアの出口に設置したゴミ袋内で処分する。グローブを外した後に、アルコール性消毒液で手指消毒を行う。マスクに関しては、着用したままで良い。
- 試合終了後に相手コーナーへ移動し、コーチとの握手などが慣例的に行われているが、対戦相手意外との身体的接触は、可能な限り避ける。
- グローブ、ヘッドガードは、各試合後にアルコール消毒を実施し、乾燥させる。なお用具の消毒方法、担当者などは事前に打ち合わせておく。
- リングに関しては、試合ごとにロープの拭き上げを行い、キャンパスに関しては、その日の競技終了後に、拭き上げでの清掃を行う。
- 各グローブをどの選手が使用したか、使用記録を残す。ヘッドガードの貸し出しは行わない。

2. 移動手段、宿泊施設について

2-1. 競技会場への移動手段

- 宿泊施設から競技会場までの移動は徒歩とし、選手・引率者にたいして徒歩 15 分圏内の宿泊施設を手配する。
- 競技役員についても同様とする。

2-2. 宿泊施設の感染防止策

- 感染防止のため、宿泊施設が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを提示する。各事項がきちんと遵守されているか定期的に確認するよう要請する。
- 特に、宿泊施設のロビー、トイレ、浴場等の共用スペースの感染防止対策の徹底について、管理者に依頼する。
- 食事中は感染のリスクが高いため、会話は禁止する。

以上